

分科会テーマ	【第8分科会】災害ボランティア	
テーマ趣旨、 進め方	阪神・淡路大震災やその後の災害への救援活動の経験等を活かし、防災・減災への取り組みや災害に強い地域づくりを進めることは、各分野共通の課題である。そこで、災害ボランティアに関する現状と課題、展開の可能性や必要な取り組みについて意見交換した。	
出席者	井上 あい子 NPO法人HINT 木村 幸一 淡路ふるさと塾 石田 裕之 歌手・防災士・大学講師 松尾 紀明 郊外地域振興支援機構 福島 真司 兵庫県社会福祉協議会 柳瀬 長明 ひょうごボランティアプラザ	ゲストスピーカー 鬼本 英太郎 ひょうごボランティアプラザ 稲葉 滉星 神戸大学持続的災害支援プロジェクトKONTI
ファシリテーター	頼政 良太 被災地NGO協働センター	
事例・話題提供		
<p>【事例1】 鬼本 英太郎(ひょうごボランティアプラザ) 兵庫県内の災害ボランティアの仕組みについて発表</p> <p>【事例2】 稲葉 滉星(神戸大学持続的災害支援プロジェクトKONTI) 熊本地震など災害時の神戸大学持続的災害支援プロジェクトKONTIの学生の活動について発表</p>		
意見の概要・まとめ		
<p>【社協災害VCとそのほかの活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター(以下:VC)は一つの仕組みでしかない。 ・社協の連携先とは？岡山では全社協の要請に基づいてVCに応援を派遣。 ・岡山では社協VCしかなく、行きにくかった。 ・大阪の地震の際、VCは立ち上がりず支援に入りづらかった。飛び越えて支援をすることもOKなのか？ <p>【ボランティアな活動と管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協でボランティアを管理しているが、社協を通さない活動があっても良いのでは？ ・VCを通さないと「モグリ」と言われる。例えば、音楽を届ける支援は断られるなど、VCでは個人の技能を生かせないことがある。 <p>【多様な支援の受け皿が必要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体も含めて準備が必要ではないか。 ・まずは兵庫のモデルづくり。例えば人材バンクなど。 ・人材バンクを作ってもリストに血を通わせる作業が必要。小さな地域での関係づくりなども大事。 ・情報共有できれば支援の行き先も考えやすい。 <p>【自立、支援の引き際】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(西日本豪雨で)2カ月を超えて外部の支援はいつまですべきか？ ・地元のことは地元でできるように支援を展開するのが大切 ・(被災者にも)役割の自覚、自立の意識を持ってもらうことが大切。復興する人の支援をしている。 ・一人ずつを見ることが大切。引き際は人次第。一つひとつのケースで考えていく必要がある。 <p>【固定観念を変える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いまの避難所の環境を許しているのか？避難所の運営の仕事に日当が出るなど考え方を変えていかないといけないのでは？ ・一つ一つのプロジェクトが被災者に寄り添っているのかを考えないといけない。 ・支援をすることが翻って自分たちの地域の備えにつながる。 ・もっと行政の支援が必要。例えば、参画協働セクションは災害時動かない。もっと被災地に行って参画協働による被災者支援を応援できればよい。 ・気持ちを形につなげる仕組みが必要ではないか。 		